

地域医療連携だより

vol.36
2025.10

脳血管内治療センター 開設のご案内

このたび、京都岡本記念病院は脳血管内治療センターを開設いたしました。センター長には脳神経外科の南都昌孝医師が就任し、最先端をめざした脳血管内治療を通じて地域医療に貢献してまいります。

京都岡本記念病院 脳血管内治療センター センター長 南都 昌孝



脳血管内治療とは

脳血管内治療は、開頭することなくカテーテルを用いて血管内部から脳血管病変にアプローチする低侵襲な治療法です。近年、治療成績が著しく向上しており、脳血管障害の診療に不可欠な治療選択肢となっています。開頭手術が困難な複雑な病変や脳深部の病変にも対応可能であり、今後さらなる技術の発展が期待されています。

当センターの特徴

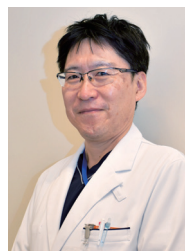
当センターは、脳神経外科、脳神経内科、および救急科が密接に連携する包括的かつ迅速な診療体制を構築しています。これにより、あらゆる脳血管障害に対して、内科的治療・管理、脳血管内治療、開頭手術を組み合わせた最適な治療を迅速に提供します。

また、当センターは日本脳神経血管内治療学会の研修施設に認定されており、豊富な症例数に基づく専門的な知識と経験を有する医師が、質の高い医療を提供できる体制が整っています。

診療実績(年度別)	2020	2021	2022	2023	2024
未破裂脳動脈瘤	16	18	22	25	11
破裂脳動脈瘤	19	16	16	18	26
硬膜動静脈瘻(dAVF)	2	1	1	8	3
脳動静脈奇形(AVM)	0	0	1	7	4
脳腫瘍	0	3	5	4	4
脳主幹動脈急性閉塞	28	33	36	41	57
頸動脈狭窄(CAS)	13	17	20	23	22
その他	8	4	4	3	20
総件数	86	92	105	129	147

主な対象疾患

- 未破裂脳動脈瘤**：破裂前の脳動脈瘤に対し、コイルやステント、フローダイバーターを用いて脳動脈瘤内の血流を遮断し、破裂リスクを低減します。
- 破裂脳動脈瘤(くも膜下出血)**：破裂した脳動脈瘤に対し、主にコイルを用いて動脈瘤内への血流を遮断し、再破裂を予防します。緊急対応が必要な疾患です。
- 急性期脳梗塞(脳主幹動脈急性閉塞)**：発症後できるだけ早期(数時間以内)に血栓回収術を行い、閉塞した血管を再開通させ、脳梗塞の範囲を最小限に抑えます。
- 頸動脈狭窄症**：動脈硬化により狭窄した頸動脈をステントで拡張し、脳梗塞の発症や再発を予防します。
- 脳動静脈奇形(AVM)**：脳内の異常な動静脈シャントに対し、液体塞栓物質やコイルを用いた塞栓術を行い、出血リスクを低減します。開頭摘出術や定位放射線治療を組み合わせた集学的治療も検討します。
- 硬膜動静脈瘻(dAVF)**：硬膜面で形成された異常な動静脈シャントによる耳鳴りや脳出血、脳浮腫に対して、血管塞栓術を行い、病的なシャント血流を遮断します。
- 脳腫瘍**：開頭手術に先立って脳腫瘍の栄養血管の塞栓を行うことで、出血量の低減や手術をより安全に低侵襲で行うことが可能になります。



センター長(脳神経外科 副部長 兼任)
南都 昌孝 なんと まさたか
和歌山県立医科大学卒(平成9年)

- ・医学博士
- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/指導医
- ・日本脳神経血管内治療学会認定専門医/指導医
- ・日本脳卒中学会認定脳卒中専門医/指導医



社会医療法人岡本病院(財団)

京都岡本記念病院

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地

地域医療連携室

TEL 0774-46-5981(直通)
FAX 0774-46-7835(直通)